

## 平成27年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	生徒指導(Method of Guidance for Students)		授業コード	K004051
担当教員名	長谷川 祐介		科目ナンバリングコード	K30110
配当学年	3	開講期	後期	
必修・選択区分	教職必修	単位数	2	
履修上の注意または履修条件				
受講心得	無断欠席、遅刻は厳禁です。授業中、他の受講生の学習を邪魔する行為はつつしむこと。□			
教科書	文部科学省(2010)『生徒指導提要』□			
参考文献及び指定図書				
関連科目				

授業の目的	学習指導とならび学校教育において重要視される生徒指導について、基礎的事項や逸脱理論などを学習することを通して、よりよい生徒指導を行っていくための資質能力の基礎を養う。□
授業の概要	『生徒指導提要』の内容を踏まえながら、生徒指導に関する基本的考えや基礎的知識の学習を行う。また問題行動の原因などを探るために、逸脱に関する理論の学習を行う。また場面指導の演習などを通して実践的指導力の養成をはかる。□

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
<b>第1週:</b> 生徒指導の定義 授業や学習への取り組み、評価方法を説明し、生徒指導の定義について解説を行う。	
<b>第2週:</b> 生徒指導の理念と原理(1) 生徒指導の意義と課題、教育課程における生徒指導の位置づけについて学習する	
<b>第3週:</b> 生徒指導の理念と原理(2) 生徒指導の前提となる発達観と指導観、集団指導・個別指導の方法原理を学習する	
<b>第4週:</b> 教育課程と生徒指導 教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動における生徒指導のあり方について学習する。	
<b>第5週:</b> 児童生徒の心理と児童生徒理解 児童生徒理解の基本を踏まえて、児童期、青年期の心理と発達について学習する	
<b>第6週:</b> 学校における生徒指導体制 生徒指導体制の基本的な考え方を踏まえつつ、生徒指導の組織と生徒指導主事の役割、全校指導体制の確立などについて説明する。	
<b>第7週:</b>	

<p>犯罪、問題行動に関する社会学理論(1) 少年非行を理解するために、逸脱に関する社会学理論を学習する。特に緊張理論、ボン ド理論などを学習する。</p>	
<p><b>第8週：</b> 犯罪、問題行動に関する社会学理論(2) 少年非行を理解するために、逸脱に関する社会学理論を学習する。特にいじめの四層 構造論などを学習する。</p>	
<p><b>第9週：</b> 犯罪、問題行動に関する社会学理論(3) 少年非行を理解するために、逸脱に関する社会学理論を学習する。特にラベリング理論 などを学習する。</p>	
<p><b>第10週：</b> 生徒指導の進め方(1) 生徒指導のうち、児童生徒全体への指導のあり方について学習する</p>	
<p><b>第11週：</b> 生徒指導の進め方(2) 生徒指導のうち、個別の課題を抱える児童生徒への指導のあり方について学習する</p>	
<p><b>第12週：</b> 生徒指導の進め方(3) これまでの学習経験を踏まえて、学校現場を想定した実践(場面指導)を行う。</p>	
<p><b>第13週：</b> 生徒指導に関する法制度 校則、懲戒と体罰、出席停止、各種法令や非行少年の処遇について学習する</p>	
<p><b>第14週：</b> 学校と家庭・地域・関係機関との連携 学校を中心とした家庭・地域・関係機関などとの連携活動を通してどのように生徒指導を 行っていくのか学習する</p>	
<p><b>第15週：</b> 今後の生徒指導にむけて これまでの授業をうけて、今後、どのように生徒指導を行っていったらよいのか、考える</p>	
<p><b>第16週： 期末試験</b></p>	
<p><b>授業の運営方法</b></p>	(1) 授業の形式 「講義形式」
	(2) 複数担当の場合の方式
	(3) アクティブ・ラーニング
<p><b>地域志向科目</b></p>	該当しない
<p><b>備考</b></p>	

<p><b>○単位を修得するために達成すべき到達目標</b></p>	
<p><b>【関心・意欲・態度】</b></p>	<p>学校現場における教育実践や生徒指導に関する関心・意欲をもつことができる</p>
<p><b>【知識・理解】</b></p>	<p>学校現場における生徒指導に関する基礎的知識を理解する</p>

【技能・表現・コミュニケーション】	場面指導を通して、実際の生徒指導場面に必要とされる技能や表現、コミュニケーションのあり方を理解する
【思考・判断・創造】	学校現場における生徒指導を適切に行うことができる志向や判断に関する基礎的能力を身につける

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等(テスト)	レポート・作品等(提出物)	発表・その他(無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		20点		
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。	50点			
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。			15点	
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。	10点		5点	

(「人間力」について)

※以上の観念に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安

成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等(提出物)	
発表・その他(無形成果)	